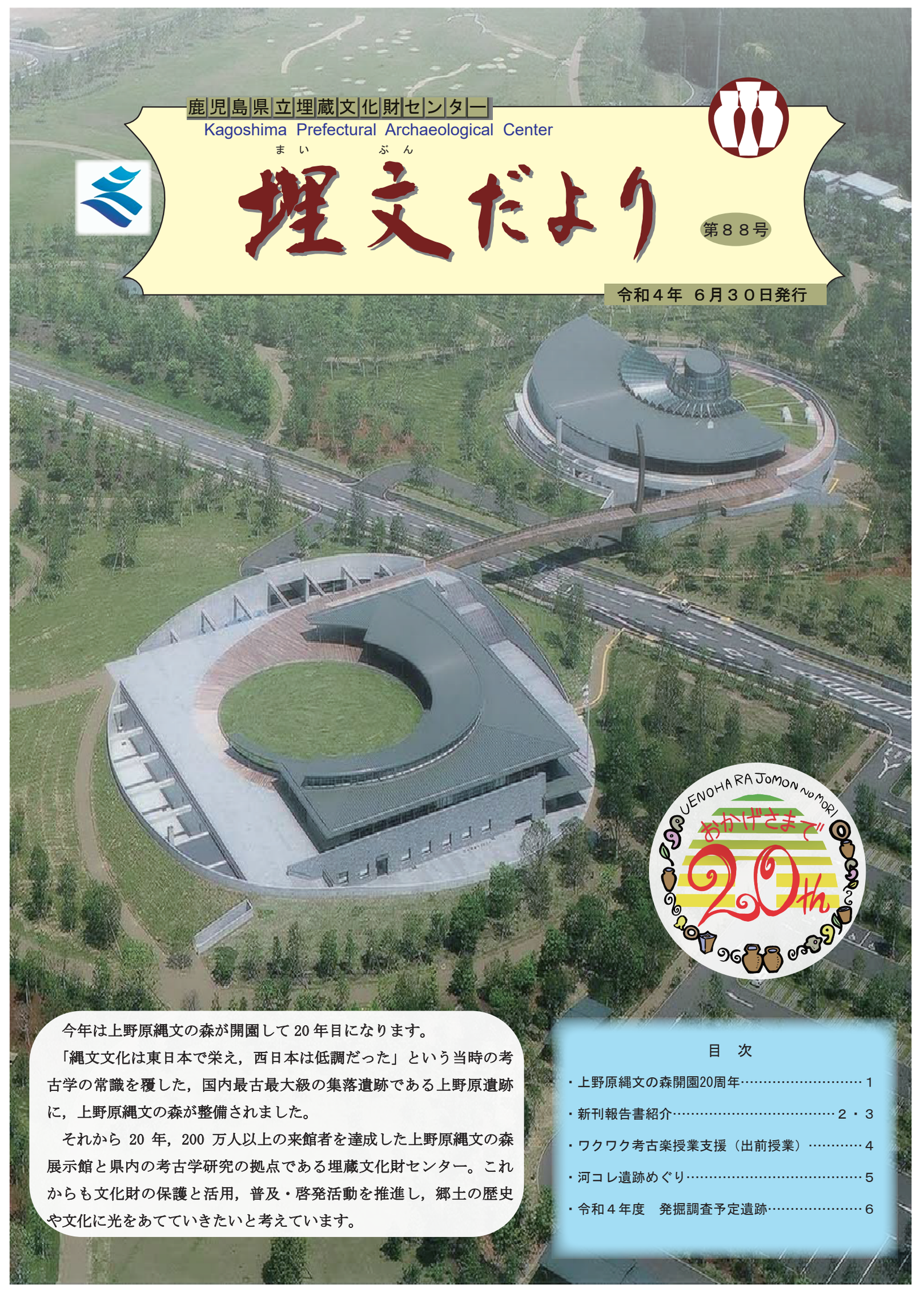
鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第８８号
令和４年 ６月３０日発行



今年は上野原縄文の森が開園して 20 年目になります。

「縄文文化は東日本で栄え，西日本は低調だった」という当時の考古学の常識を覆した，国内最古最大級の集落遺跡である上野原遺跡に，上野原縄文の森が整備されました。

それから 20 年，200 万人以上の来館者を達成した上野原縄文の森展示館と県内の考古学研究の拠点である埋蔵文化財センター。これからも文化財の保護と活用，普及・啓発活動を推進し，郷土の歴史や文化に光をあてていきたいと考えています。

目　次

・上野原縄文の森開園20周年……１
・新刊報告書紹介……２・３
・ワクワク考古楽授業支援（出前授業）……４
・河コレ遺跡めぐり……５
・令和４年度　発掘調査予定遺跡……６

新刊報告書紹介

昨年度，県立埋蔵文化財センターでは６冊の発掘調査報告書を刊行しました。今回はその中の４冊についてご紹介いたします。

旧石器時代から続く生活の跡 －下桃木渡瀬遺跡（南九州市川辺町）－

下桃木渡瀬遺跡は，県道29号石垣加世田線の拡幅工事に関連して調査が行われ，旧石器時代や縄文時代早期，縄文時代後期，縄文時代晩期，弥生時代，古墳時代と，様々な時代の遺構・遺物が発見されました。

旧石器時代では，礫群６基を検出し，角錐状石器や凹石・磨石等の石器が出土しました。凹石や磨石は，旧石器時代の礫石器の使用法を解明する手がかりとなる貴重な資料になると思われます。

縄文時代早期では，石蒸し料理跡と考えられる集石２基を検出しました。遺物は，主に縄文時代早期前葉ごろの土器を中心に，磨石や有溝砥石などの石器が出土しました。

古墳時代では，竪穴建物跡１基や，成川式土器が出土しました。当時ここに暮らしていた人々の生活の様子や土地利用の実態について，有効な情報を得ることができました。

旧石器時代の礫群

旧石器時代の石器

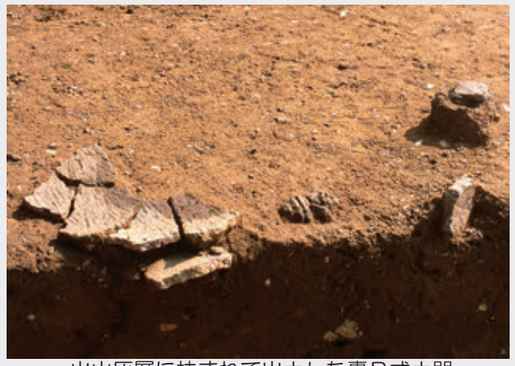
県内２例目の発見！ －川上遺跡・鶯原遺跡・猫塚遺跡（鹿屋市吾平町）－

川上遺跡・鶯原遺跡・猫塚遺跡は，大隅縦貫道吾平道路の建設工事に伴って発掘調査が行われた遺跡です。３つの遺跡をあわせて１冊の報告書にしています。

川上遺跡では，主に縄文時代早期と弥生時代の遺構・遺物が発見されました。

鶯原遺跡は，縄文時代早期・弥生時代・古墳時代・古代の遺跡で，縄文時代早期の様々な型式の土器や，石器の製作跡と見られる遺構などが発見されました。

猫塚遺跡は縄文時代早期・縄文時代前期・弥生時代・古墳時代の遺跡です。7300 年前の鬼界カルデラの噴火で堆積したアカホヤ火山灰と，6400 年前の池田湖の噴火で堆積した池田降下軽石の間の層から，縄文時代前期の轟Ｂ式土器が発見されました。このような出土例は，今まで鹿屋市の伊敷遺跡の 1 例のみが知られており，本遺跡が県内２例目の貴重な発見になりました。



火山灰層に挟まれて出土した轟Ｂ式土器

重要遺跡の再評価 －上加世田遺跡（南さつま市加世田）－

上加世田遺跡は，南さつま市加世田に所在します。本県の考古学を長年にわたってリードしてきた故河口貞徳氏が，昭和 43 年から調査に携わった遺跡です。本報告書は，昨年度刊行された１～３次調査に続く，４～６次調査の図面や資料，遺物を今日的視点から再整理，再報告したものになります。

縄文時代後期末から晩期の遺構・遺物が発見されており，特に後期末の土器は「上加世田式土器」とよばれ，本遺跡が標式遺跡となっています。

遺構では，土坑や礫群，焼土域，埋設土器等が検出されました。遺物では，大量の土器・石器，土偶や軽石製岩偶等の祭祀行為を行ったと考えられる各種の製品類，また勾玉や管玉などの玉製品や砥石等，玉作り関係の遺物も多く出土しました。

当時の発掘調査の様子

出土した上加世田式土器

長きにわたる調査の集大成 －中津野遺跡（南さつま市金峰町）－

中津野遺跡出土の縄文時代後期の土器

中津野遺跡は，南さつま市金峰町中津野に所在します。

発掘調査中断の時期もありましたが，平成 19 年から平成 29 年まで発掘調査が行われ，遺跡の低地・低湿地部分で発見された縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構・遺物を報告しています。

低地・低湿地部分からは，特に縄文時代後期ごろと弥生時代の遺構・遺物が多く発見されました。

縄文時代後期では，指宿式・市来式土器が大量に出土しており，南九州の土器の移り変わりを考える貴重な資料です。

弥生時代では，弥生時代早期の刻目突帯文土器や前期の高橋式土器などが多数出土したほか，国内最古級の準構造船の部材（舷側板）が出土しています。これは当時の海と交通による交流や船の構造の発達を考える上で，大変貴重な資料です。

ワクワク考古楽授業支援（出前授業）
～校区の遺跡と歴史を学ぶ in 中種子町～

県立埋蔵文化財センターでは，県内の小・中・高校に本センター職員が出向いて，発掘された本物の土器や石器などの資料を活用し，授業を行う「ワクワク考古楽」授業支援（出前授業）を行っています。

昨年度は小学校 16 校，中学校２校，高等学校２校の計 20 校で実施しました。その中で，昨年 11 月に中種子町の小・中学校で実施した出前授業についてご紹介いたします。

令和３年 11 月 16 日から 19 日にかけて，中種子町の小中学校６校（星原小学校・納官小学校・岩岡小学校・南界小学校・野間小学校・中種子中学校）で，実施しました。

まず，埋蔵文化財センターが行っている発掘調査の方法や，上野原遺跡の紹介をしました。次に，約３万年前のものと考えられる，日本最古級の旧石器時代の落し穴が見つかった立切遺跡や，縄文時代草創期の隆帯文土器が多く出土し，出土遺物が重要文化財に指定された三角山遺跡（現在種子島空港）など，中種子町の代表的な遺跡を紹介しました。中種子町には３万年以上前から人々が暮らしていて，とても長い歴史があることや　自分たちの学校や校区内にも遺跡があり，遺跡が身近なものであることを知り，自分の住む地域の歴史に目を向けることの面白さを学びました。

岩岡小学校での授業の様子

納官小学校での授業の様子

その後，センターから持参した本物の縄文土器や弥生土器，石器を手に取って観察し，土器の文様の付け方を調べました。また，縄文土器を古いものから順に選んでいくクイズにも挑戦しました。

中種子中学校での授業の様子

子どもたちは，興味津々で土器や石器を手に取り，質感や重さ，色などをじっくり観察し，どのように使われていたのかを学習しました。どの学校でも子どもたちが生き生きと活動する姿がありました。

本県は離島が多いことや，上野原縄文の森や県立埋蔵文化財センターが遠距離であるため，なかなな見学に行く機会がない子どもたちも多いと思います。そのような子どもたちのために，実際に本物の土器や石器に触れ，郷土の歴史や文化に興味・関心を持ってもらうことが，「ワクワク考古楽」授業支援の大きな目的です。本年度も実施していますので，ぜひ利用していただければと思います。「ワクワク考古楽」の詳細は，本センターホームページ（https://www.jomon-no-mori.jp/bunkazai-center/seinan/）をご覧ください。

河コレ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡

⑤嘉徳遺跡（大島郡瀬戸内町）

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは，県考古学会の会長を長年つとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理・活用する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では，これまで河口氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り，貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて，先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょう・・・。

嘉徳遺跡は，奄美大島の南端，瀬戸内町嘉徳に所在します。瀬戸内町古仁屋から，県道 58 号線を北上し，勝浦トンネルの手前を右折，４ km ほど進み三叉路を右折，さらに 600m進み，斜め左方向に曲がり，そこから４ km ほど進むと嘉徳遺跡に到着します。遺跡東側に，嘉徳川によって運ばれた砂が堆積してできた嘉徳海岸と広大な太平洋が広がります。標高は 10m程度で，南北 50m，東西 75mの砂丘の上に立地しています。

嘉徳遺跡位置図

遺跡は砂利採取作業中に発見されました。遺跡面積は約 2,500 ㎡ほどあったようですが，調査開始時点で約 1,000 ㎡近くがすでに消滅していたようです。その後，瀬戸内町教育委員会が調査主体となり，調査担当者として河口氏が参加し発掘調査が行われました。

発掘調査は 1974（昭和 49）年１月に現地調査が行われ，同年８月３日から 16 日までの 14 日間で実施されました。調査に入る前は，ジャングルのように植物が茂っていて，ハブが出てもおかしくないようなところだったようです。

嘉徳遺跡発掘調査時の様子

調査の結果，遺構は石組遺構や炉跡，遺物では縄文時代中期～縄文時代晩期ごろの土器・石器が大量に出土しました。また，獣や魚の骨も出土しました。

遺物で目を引くものは，土坑の中から出土した特殊土器です。縄文時代後期（ 約 3500 年前 ）のもので，口の部分が二重になっています。また，底部の両側に穴が開けられており，そこにひもを通していたと考えられます。河口氏は「不思議なもの」，「壺形土器の器形と深鉢形の器形が融合したもの」と表現しています。使用方法については，「携帯用土器」で，祭祀に使っていたと述べています。また，「奄美のハブのいる環境から生まれた携帯用容器であったかもしれない。」とも推測しています。

みなさんは，この不思議な土器の中に何を入れていたと思いますか？想像が膨らむおもしろい土器です。

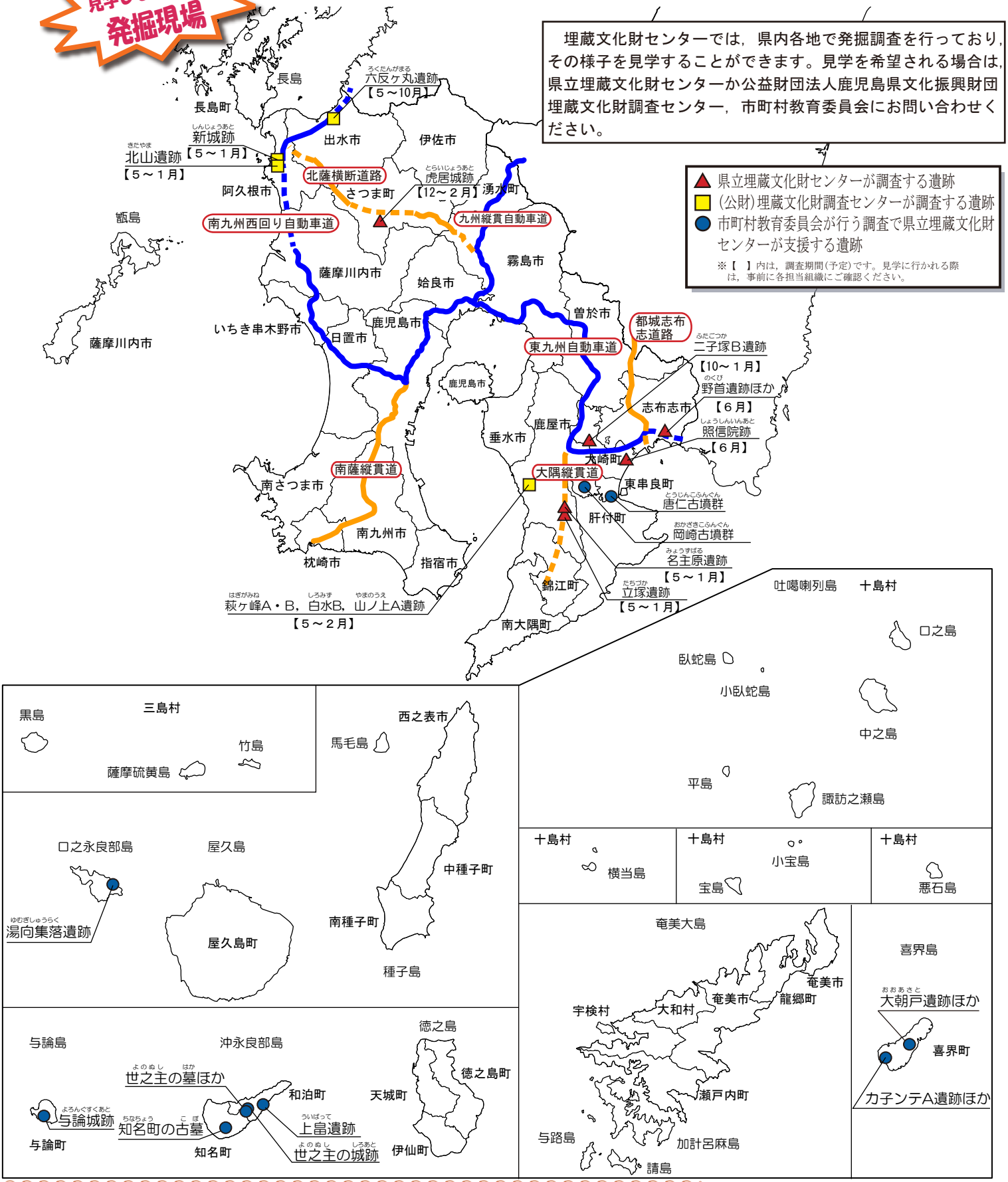
土器出土状況と復元された特殊土器

見学してみない？ 発掘現場

令和４年度 発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは，県内各地で発掘調査を行っており，その様子を見学することができます。見学を希望される場合は，県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター，市町村教育委員会にお問い合わせください。

▲ 県立埋蔵文化財センターが調査する遺跡
■ (公財)埋蔵文化財調査センターが調査する遺跡
● 市町村教育委員会が行う調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡
※【 】内は，調査期間(予定)です。見学に行かれる際は，事前に各担当組織にご確認ください。



当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前９時～午後５時まで，入館料は無料です。(現在新型コロナウイルス感染症予防のため，整理作業の見学は休止しています。)

当センターのホームページは，鹿児島県(https://pref.kagoshima.jp/)から入るか，「上野原縄文の森」で検索してください。また，フェイスブックは右側のＱＲコードからお入りください。

検索キーワード 上野原縄文の森 検索 クリック

ホームページ　フェイスブック

埋文だより　第88号
発　行　日　令和４年６月30日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:https://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp